



2016 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第8戦

SUPERBIKE RACE in OKAYAMA
TOHO Racing レースレポート
JSB1000クラス #104 山口 辰也

9月24日(土曜日) 天候：晴れ 路面:ドライ

公式予選/RACE1：1' 29"824 5番手

RACE2：1' 29"658 5番手

9月25日(日曜日) 天候：曇り/雨 路面:ウエット

決勝/RACE1：6位 (24周) RACE2：優勝 (22周)

開催地：岡山県・岡山国際サーキット (1周=3,703km)

入場者数：8,500人 (土・日合計)

TOHO Racingにとってホームコースとなる岡山国際サーキットで全日本ロードレース選手権第8戦が開催された。JSB1000クラスは、第7戦オートポリスが熊本地震の影響で中止になったこともあり、第5戦SUGO以来のレースとなった。その間、鈴鹿8耐が7月下旬にあったものの、約2カ月振りの実戦。山口は、いつもながらトレーニングに励んでいたが、8月下旬にモトクロスで転倒し、右手首を一部骨折してしまう。その2週間後には、全日本第8戦岡山国際に向けた事前テストが行われた。山口は、事前にトライアルやNSF100に乗り、走ることができることを確認。テストでは、多くの周回ができないだろうと思っていたが、思いのほか調子はよく、すぐに去年の予選タイムを出すことができていた。セットアップも進み、いいフィーリングを得て事前テストを終えていた。



第7戦オートポリスが中止になったため、今回の第8戦岡山ラウンドは、土曜日にレース1、日曜日にレース2が開催されるスケジュール。レースウィークに入り、金曜日の1本目は雨となったが、レースが雨になる可能性もあったため、しっかり走って感触を確認。午後はドライとなり、違うタイプのスイングアームを試してみる。このスイングアームに可能性を感じた山口は、土曜日の公式予選Q1を使ってセットアップを進めることを決めた。その中でも5番手タイムを刻み、Q2に進出。Q2では、ニュータイヤを履きタイムアタックを敢行。タイムを縮めることに成功した山口は、両レースとも5番手グリッドからスタートすることになった。

土曜日に行われたレース1。クラッチミートはうまく行った山口だったが、1コーナーから2コーナーで行き場を失い遅れてしまう。オープニングラップは、8番手。そこから1台ずつかわして行き、2番手争いの集団が前に見えていた。何とか追い付こうとプッシュする山口だったが、差を詰めていくためにペースを上げたことで、タイヤを消耗してしまい単独走行のまま6位でゴールした。



日曜日のレース2は、決勝直前に雨が降ってきたため急きょウェットコンディションで争われた。周回数も2周減算され22周となった。レース1での失敗を繰り返さないよう、オープニングラップは、特に慎重に走った。目の前で転倒もあり、マシンと路面の状態、そしてライバルの状況を確認すると、山口自身にアドバンテージがあることが分かった。「焦らないで走れば、必ず抜ける」と4番手につけていた山口は、まずゼッケン1をつける中須賀選手を5周目のアトウッドカーブで、かわし3番手に上がると、野左根選手を6周目のバックストレートでかわし2番手に浮上。そしてトップを走る高橋選手に追い付くと、11周目の最終コーナーで高橋選手がふくらんだところを見逃さずにインから前に行く。トップに立った山口は、さらにペースを上げ13周目に、このレースのファステストラップをマーク。あっと言う間に独走体制を築くと、2位に約36秒もの大差をつけゴール。2011年に結成、2012年から最高峰クラスに参戦しているTOHO Racingが、初めてJSB1000クラスを制した。そしてヤマハファクトリーの中須賀選手の連勝をプライベートーターがストップした瞬間でもあった。

また、今回はTOHO Racing ClubからST600クラスに江口謙、門馬巧実、そして福間勇二がエントリー。初の全日本参戦となった福間だったが、予選通過はならなかった。江口は、19位でゴールしポイントを獲得。門馬は、24位でチェッカーフラッグを受けている。



JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「22周集中して走ることができました。自分自身でも、こんな形で優勝できるとは思っていませんでしたが、TOHO Racingのメカさんが心を込めて組んでくれたマシンは、本当によく走ってくれました。東広島からは、多くの方が応援に来てくれましたし、みんなの前で勝つことができて良かったです。本当に応援ありがとうございました。また最終戦鈴鹿も頑張りますので、引き続き応援よろしくお願いします」



チーフメカニック 戸井田剛コメント

「TOHO Racing のホームコースでしたし、いいリザルトを残そうと取り組んできましたが、最高の形で終わることができ、あらためてレースの持つすばらしさを感じることができました。レーシングライダー山口と福間代表と出会えたことで、実現した優勝を噛みしめて、また新たな気持ちで最終戦に臨みたいと思っています」

総監督 福間勇二コメント

「まずは、ご支援、ご協力を頂いておりますスポンサーの皆様、地元東広島の皆様、そしてご声援くださるファンの皆様に、心より御礼申し上げます。プライベートチームですが優勝することを目標とし、これまでチーム一同精一杯挑んで参りました。皆様に支えて頂きこうして表彰台に立てたことに感謝致します。最終戦も全力で挑みたいと思います。引き続き何卒よろしくお願い申し上げます」



株式会社 TOHO
TOHO Racing
担当：野口